

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

房室結節回帰性頻拍に対するカテーテルアブレーションにおける高精度 3次元マッピングシステムを用いた遅伝導路部位の同定

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科 (研究責任者)若松 雄治

<研究期間>

承認日 ~ 西暦 2022年 4月 30日

<研究の目的と意義>

房室結節回帰性頻拍 (AVNRT) は、心房と心室の間にある房室結節の中に回路が形成される頻拍です。AVNRT に対するカテーテルアブレーションは、後中隔領域に存在する Jackman 電位や Haïssaguerre 電位と呼ばれる特有の電位を指標にしながら、アブレーションを行います。しかし、一部の患者さんでは後中隔領域へのアブレーションでは成功せず、上方の中中隔から前中隔へのアブレーションが必要になることがあります。この前中隔や中中隔領域へのアブレーションは、房室ブロックという合併症が起こるリスクが高くなることが報告されており、注意が必要になります。現行のアブレーション方法では、アブレーション成功部位を的確に特定することは困難であり、場合によっては何ヶ所もアブレーションを行わざるを得ないこともあります。

近年、RHYTHMIA HDx マッピングシステムという 3次元マッピングシステムが開発され、マッピングの精度が飛躍的に向上しました。このマッピングシステムを用いることで、局所の電位を密に取得することができ、不整脈の診断がより簡便になってきています。さらに、このマッピングシステムには、「Lumipoint」という分裂する電位を 3次元マッピング内に表示できる機能が搭載されています。そこで、我々はこの「Lumipoint」という機能を使用し、Jackman 電位または Haïssaguerre 電位などの特徴的な電位を 3次元マッピング内に表示することにより、適切なアブレーション部位を特定できるのではないかと考えました。そこで、この研究では過去の症例の中で中隔領域を RHYTHMIA HDx マッピングシステムを用いてマッピングし、アブレーションを行った症例を用いて、成功通電部位と 3次元マッピングシステムの Lumipoint により表示される電位の存在する部位との整合性について検討することとした。

<利用する試料・情報の項目>

術前後の検査データ (血液検査、心電図、心臓超音波検査、ホルター心電図、CT 画像など)、カテーテルアブレーション中のデータ (心内心電図、手術時間、3次元マッピングシステムに記録されるアブレーション情報など)、術前後の診療記録など。

<対象となる患者さん>

西暦 2017 年 1 月 1 日から西暦 2021 年 4 月 30 日の期間に日本大学医学部附属板橋病院循環器内科で、房室結節回帰性頻拍に対し満 15 歳以上でカテーテルアブレーションを受けた方。

<研究の方法>

研究対象者のアブレーション施行前後の患者情報及び上記の各種情報を、カルテを遡って収集し専用のエクセルに入力し、探索的に解析を行います。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

循環器内科

氏名：若松 雄治

電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2410 (PHS) 8537

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)